

No. 1072

混迷の政局

— 第73臨時国会 —

参院選を受けた第73臨時国会は7月24日召集された。全国区第一位で当選した宮田輝さんらタレント議員も次々に初登院、カメラのフラッシュを浴びた。「列島縦断選挙違反」をおこした糸山英太郎議員は激しいヤジを受けカメラマンや記者にもみくちゃにされながら初登院、それでも「私の父やおじは金持だが私の選挙には一銭も出してもらっていない。買収に回せる金があったらもっとラクな選挙ができた。逮捕された運動員の潔白を信じている。」と強気の会見を行った。

一方国会は会期の幅をめぐって与野党が対立、衆院議院運営委員会の採決に持ちこまれた。しかし、この採決で自民党委員二人が「賛成」の挙手をせず議運委は紛糾した。これより先7月16日、田中内閣を真っ向から批判した福田蔵相は保利行管長官とともに辞任、田中首相は大平大蔵、木村外務、細田行管長官と応急措置で当面をしのいだものの政局は揺れ続けていた。

7月25日、深夜前尾衆院議長の裁定で衆院本会議を開き、「会期8日」を賛成多数でようやく議決したものの、国会は冒頭から大波乱し、混迷の政局をまざまざと見せつけた。

托鉢僧

托鉢とは、修行僧が経文をとなえながら家々の前に立ち、米や銭の施しを受けてまわることをいう。

工藤良住さん二十四才、荒廃した般若寺の再建をめざし、托鉢行脚をはじめた青年僧である。般若寺は遠く飛鳥時代に建てられ、学問僧千人を擁し、貧者・病人の救済にあたってきた。しかし、今、本堂は朽ちかけ、庫裏は傾き、昔日の繁栄のおもかげはない。この一月、父の急死で千三百年の伝統を持つ般若寺を継いだ良住さん。寺の再建は父の願いであった。檀家も信徒も持たない寺が、四千万円もの再建費をどうしたら集められるか、——良住さんは托鉢を思いついた。

同じひとつの道を、かって幾人かの名僧が通った。空也が、一遍が、そして円空が、山を越え、谷をわたり、信仰をひろめながら人々の心に生きる糧をあたえて歩いた。その頃、宗教は大衆の心に生きていた。しかし、現代において宗教は必要なのか彼は悩む。

読経、——彼は経を読み続ける。その耳に、遠く、民の苦悩の音が聞えるようだ。

——親の命が欲しい、子供の命が欲しい、人間はなんのために生まれてきたと思うか？

かたえに公害に苦しむ声あれば、こなたに末世をあおりたてる声もある

——人類は、今やあと二十年か、三十年で全部死ぬといわれているんだ、物価問題がなんだ！

はたして寺が必要なのかどうか、再建が目的か、托鉢するのが目的か、苦悩の中に、今日も良住さんは托鉢の旅を続ける。